

# RSウイルス(呼吸器合胞体ウイルス)について

RSウイルスは、肺および呼吸器に影響を及ぼす一般的な感染性ウイルスです。高齢者では、加齢に伴う免疫機能低下などのため重症化リスクが高く、基礎疾患のある人ではより重症化するリスクが高くなるといわれています。RSウイルスにより、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、喘息、慢性心不全などの病態が悪化し、肺炎、入院、死亡などの重篤な転帰につながる可能性があります。

RSウイルス感染症は呼吸器感染症のひとつで、日本で5番目に多い死因は肺炎であり、RSウイルス感染症で入院した患者さんのうち、約半数が肺炎を罹患したことが米国のデータで示されています。

RSウイルス感染症による60歳以上の成人での入院と院内死亡は、先進国では毎年47万人以上の入院と約33,000人の院内死亡、日本では約63,000人の入院と約4,500人の院内死亡が推定されています。

## ■臨床症状

成人・高齢者におけるRSウイルス感染による主な症状は、発熱、咳嗽、喀痰、喘鳴および呼吸困難などが多い。しかし、臨床症状だけでインフルエンザやコロナなどの他の呼吸器感染症と鑑別することは困難です。

## ■発症年齢による臨床像の違い

2歳までにほとんどの小児がRSウイルスに感染します。感染後に抗体は産生されますが、次の感染を防御するために必要な抗体を獲得することができないため、成人になっても繰り返し感染することが特徴です。成人のRSウイルス感染症は、通常感冒様症状を呈し自然軽快すると考えられていましたが、介護施設などでの集団発生の原因にRSウイルス感染の関与が指摘されるだけでなく、高齢者でのRSウイルス感染症はインフルエンザと同等の致命率を引き起こすことが示唆されています。

## ■RSウイルス感染症は小児だけでなく、高齢成人でも気を付ける必要があります

RSウイルス感染症を含む下気道感染症は、世界における死亡原因の第4位であることがWHO(世界保健機関)より報告されています。RSウイルスは、小児のみならず成人における呼吸器感染症の一般的かつ重大な原因であり、飛沫感染や接触感染により感染します。

健康人がRSウイルスに感染しても風邪程度で済みますが、高齢成人で、基礎疾患がある場合は重症化するリスクが高まります。特に喘息、COPD、糖尿病、冠静脈疾患、うっ血性心不全などの基礎疾患がある人がRSウイルスに感染した場合、重症化して入院する可能性が高くなるため注意が必要です。



## ■高齢者ウイルス感染症はワクチンで予防できます

RSウイルスは、特定の治療法のない主要な感染性の病原体のひとつです。RSウイルス感染症を予防するワクチンが新たに2024年1月15日発売されます。特定の基礎疾患を有する患者さんを含め、RSウイルスによる下気道疾患に対して全般的に高いワクチン効果が認められています。

WHO(世界保健機関)が作成している最新の慢性閉塞性肺疾患(COPD)のガイドラインGOLD2024の中でも、60歳以上の慢性心疾患や慢性肺疾患の患者さんに対してはRSウイルスワクチンの接種をエビデンスAで推奨されています。

一方で同じガイドラインの中で慢性閉塞性肺疾患(COPD)に対して、インフルエンザワクチン、コロナワクチン、肺炎球菌ワクチンはエビデンスBで推奨されていますので、RSウイルスを予防する意義が高いことがうかがえます。

60歳以上の成人におけるRSウイルスワクチンの全般的有効性は82.6%となっており、心肺系や内分泌代謝系などの基礎疾患がある60歳以上の成人における有効性は94.6%でした。またワクチン接種後の副反応として、注射部位疼痛、疲労、筋肉痛、頭痛、関節痛などがあるため、注意が必要です。

ワクチン以外での感染予防として、手洗いや手指の消毒などを徹底することが重要です。接触感染の対策としては、手指消毒やアルコール消毒剤で、手すりやドアノブなどの人の手がよく触れる場所の消毒を行い、家族間であってもタオルなどの共有は避けることが大切です。飛沫感染対策としては、こまめに室内を換気することが大切です。

# ふれあい 曾山医院

胃腸内科・外科・内科・肛門外科 <https://soyama-clinic.com/>

志筑1391-9  
Tel:62-5566

2024年5月号  
(第150号)

発行人  
曾山 信彦



編集委員会



曾山医院  
ホームページ  
[soyama-clinic.com](https://soyama-clinic.com)

